

令和5年4月11日

令和4年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏名	所属	職名
	今井 智之	神経精神科	助教 (リエゾンチームリーダー)
グループ全員 *記入欄が不足する場合は、 別紙に記入	竹林 実	大学院生命科学研究部 神経精神医学	教授(診療科長)
	朴 秀賢	大学院生命科学研究部 神経精神医学	准教授(医局長)
	北代 恵	看護部	西2病棟看護師長
	江田 由美子	看護部	西2病棟副看護師長 (精神看護専門看護師)
	市川 麻紀	看護部	西2病棟副看護師長 (認知症看護認定看護師)
研究テーマ若しくは活動テーマ	「全入院患者における不眠・せん妄対策ポケットマニュアル」の編纂、および せん妄ハイリスク患者ケア加算・認知症ケア加算取得に向けた教育・啓蒙プロジェクト		
助成金額	445,000円	助成金使用総額	445,000円
<p>使用内訳</p> <p>消耗品 6,638円 (内訳 コピー用紙6,638円)</p> <p>その他 438,362円</p> <p>(内訳 印刷費380,000円、図書費23,562円、プリンター34,800円)</p>			
<p>成果(※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)</p> <p>本プロジェクトの中核として、神経精神科コンサルテーション・リエゾンチームははじめ多職種の日常臨床における知識・経験の結晶である「不眠・せん妄対策ポケットマニュアルーすべての医療従事者のためにー」初版を2023年春に発行した。印刷物400部を作製し、神経精神科スタッフおよび緩和ケアチーム、初期研修医などへの配布を開始し、併せて院内サイボウズグループにてPDF版を公開した。</p> <p>これは、当科にて継続してきた初期研修医への教育活動をベースとしつつ、各職種へのアンケートやヒアリングなどによって得られた、現場の声をもとに編纂したものである。本書では特に、初学者から中堅スタッフが理解し実践しやすい、ミニマム・エッセンシャルな内容を目指した。入院環境において不眠やせん妄を呈するケースに遭遇した場合、適切な情報収集およびアセスメントを行い、必要な睡眠衛生指導および環境調整を展開できるような、また初期研修医および専攻医においては安全な薬物治療を提供できるような、質の良い医療を実践できる体制づくりの第一歩となるものである。</p> <p>一方で当科では、リエゾンサービスの質の更なる向上を図りつつ、不眠・せん妄の治療・ケアに関する継続的な自己研鑽がなされるよう努め、また他職種にもケアに関する知識や技能の提供を図ってきた。新型コロナウイルス禍のため、本プロジェクトに関連した全職種向けの具体的なプレゼンテーション活動は準備段階に留まったが、令和5年度以降は、上記マニュアル</p>			

ルをベースとした院内での啓蒙・教育活動の拡大を図り、各部署においてよりよい治療・ケアの実践がなされるよう今後も働きかけていきたいところである。

数年後には電子カルテシステムの更新も控えているが、その頃には院内の全スタッフが不眠症のみならず、せん妄や更には認知症に関する知識をより深め、可能であればせん妄ハイリスク患者ケア加算や認知症ケア加算の算定に向けた機運をも高めていきたいと考えている。引き続き、緩和ケアチームや看護部はもとより、医療の質・安全管理部、総合臨床研修センターなど、各部署の助言を頂きつつ、強力な連携を推進し、当院理念のより高いレベルでの実現を目指していく。

その他のグループメンバー

氏名	所属	職名
一木 崇弘	神経精神科	精神保健福祉士・社会福祉士
遊亀 誠二	神経精神科	助教(外来医長)
本田 和揮	神経精神科	助教(教育医長)
小山 明日香	大学院生命科学部神経精神医学	助教・公認心理師・精神保健福祉士
佐々木 博之	神経精神科	特任助教
宮川 雄介	神経精神科	特任助教(病棟医長)
日高 洋介	神経精神科	特任助教
森枝 悟	神経精神科	特任助教(緩和ケアチーム)
吉浦 和宏	神経精神科	作業療法士